



菅代表

# えひめ農業の トップランナー

有限会社こんばら（今治市大西町）

先人が守り育ててきた農地を守り  
活力ある農業、地域を次代に継承

|       |                      |
|-------|----------------------|
| 代表取締役 | 菅 恵志                 |
| 構 成 員 | 23戸                  |
| 社 員   | 1人                   |
| 設 立 年 | 2004年11月             |
| 資 本 金 | 1,680万円              |
| 事業内容  | 水稻・野菜生産販売 作業受託       |
| 売り上げ  | 約3,460万円<br>(2022年度) |

今治市大西町の有限会社「こんばら」は「みんなの幸せを実現する三方良し」という理念を掲げ、法人は地域の一部分という立ち位置で理念を実践する。地域全体の未来を見据えた取り組みを通じて、地域農業の担い手として、地域社会を支える法人として信頼される存在になっている。さらに、先人たちが育ててきた農地を守り、安全・安心、おいしい食を未来に継続するために挑戦を続ける。

## 法人設立の経緯と理念

大西町紺原地区で集落営農がスタートした背景には、同地区の主産業が造船を中心とした工業で、1戸当たりの農業経営面積は40㍏程度の第2種兼業が大半を占める地域特性がある。1984年に紺原営農生産組合を設立。2000年に紺原機械利用組合を包括して兼業農家を組織化し、機械の共同利用、作業受託を始める。農家の高齢化、担い手不足が進み作業受託量が増加したため法人化の声が上がる。04年、「集落内に耕作放棄地を出したくない」という強い思いから有限会社「こんばら」を設立、県内3例目の特定農業法人に認定される。

## 経営方針

安定した農業経営と地域環境の保全維持を経営の基本に据える。設立当初は水稻と麦中心の経営だったが、環境や天候の影響による収益の低下で麦をやめ、反収向上を図るため収益性の高い、生産効率の良い野菜を



経営の柱の一つサトイモの圃場

## 栽培のこだわりと販売戦略

順次導入した。現在、水稻・野菜（サトイモ、タマネギ、キュウリ）・作業受託の3本柱で経営安定を図る。事業企画開発部、水稻生産部、稲作管理部、野菜部、受託部など8部を設置。各部長を中心に役割分担を明確にし、連携して円滑な組織運営を行う。また、高性能農業機械を積極的に導入して水稻、野菜栽培を効率化、生産性を高めて規模拡大し収益向上につなげる。

経営面積は、水稻14・4畝（ひめの凍3畝、ヒノヒカリ7畝、コシヒカリ1・7畝、きぬむすめ2畝、モチミノリ70㍏）、タマネギ2・2畝、サトイモ2・3畝、キュウリ15㍏。

作業受託は稲刈りをメインに乾燥調製作業など約20診請け負う。

水稲はエコファーマー認証を取得し環境保全型農業を実践する。排水性の悪い水田は伐採した竹を使って暗渠排水を設けるなど食味にこだわった米づくりを行う。エリアごとに水田の管理責任者を決め、責任を明確にして最適な管理を行う。

野菜もできる限り低農薬、低肥料栽培する。サトイモは連作せず、毎年、圃場をローテーションして栽培し高品質、安定生産につなげる。

また、地域の畜産農家と耕畜連携して、稲わらと牛ふんたい肥を交換。「こんばら」はたい肥の購入費削減



タマネギの選別作業

や農産物の品質向上、畜産農家は牛の肥育向上、と双方にメリットが生まれている。

米は生産量75ト(2500袋)全量を直接販売する。輸送コストを考慮し地元企業を中心に販路を開拓。栽培のこだわりや地産地消のメリットをPRして売り先を確保し大西町内で9割を販売する。良い品質を保つために常温除湿乾燥機、色彩選別機、低温倉庫などを完備し収穫後の品質管理を徹底。出荷直前に精米し、常においしいお米を届けることで顧客を確保する。

タマネギ(極早生・早生・中生)は生産量88ト全量を市場出荷、サトイモ70トはJAおちいまばりに出荷し安定した利益を上げている。今後、インターネット販売やブドウ栽培へのチャレンジを検討している。

### 人財育成

法人を設立して20年。小規模ながら利益の上がる経営基盤を築き上げたが構成員の平均年齢は74歳。高齢化がすすみ、次代の担い手確保、育成は大きな課題だ。

23年11月、役員・近藤民憲さんの長男清志さん(44)が入社し「こんばら」は活気づく。地元で大工をしていた清志さんは50歳くらいで入社する考えだったが、組織の高齢化を



ずらりと並ぶ乾燥機

憂慮し予定を早めた。経営に参画して新たな販路開拓に取り組み、田植えや稲刈りの時期には同世代の人に声をかけて手伝いに来てもらい、将来共に法人を担う仲間づくりを始めている。

菅恵志社長は「失敗してもかまふ、やってみたいやと見守ってもらい、自分たちもやってきた。苦にならんよう楽しみながらやってほしい」と見守る。

### 地域貢献と将来

地区内の耕作放棄地は開墾利用し、農地の維持、管理要請があれば条件の悪い土地でも受け入れ、地区内の

耕作放棄地はゼロ。「こんばらに任せておけば田を守ってくれる」と信頼され、地区外からも作業委託が増えた。農業をやめる人から農地を買い取ってほしいという声も出るようになった。

当初は地区内の非農家から多くの苦情があった。子どもたちの農業体験や食育など積極的に地域と交流し、農機の作業時間を決めたり、農薬散布前の声掛けなど非農家に配慮した取り組みを続けるうちに農業に対する理解が深まり苦情はほとんどなくなった。

自治会をはじめ様々な自治組織の役員を構成員が務め、地域社会を支える役目も担う。今後も地域の法人として農業振興と地域の発展に向けて挑戦を続ける。

### 取材後記

取材の際、思いがけず近藤清志さんに出会い、思いを聞くことができました。「築いてくれた基盤があるから、考えながらやっていきたい」と話す表情は明るく、頼もしさを感じました。「こんばら」の進化が楽しみです。

コンサルタント 山岡 憲子